

隨身卷子

Op dit Boek
is
mijne herten
bestoten.

C. Schun.

慶應元年
乙丑
中元後

洋学文庫
文庫8
J157



七月十日

是日臨帖其筆法自似名之才子集

夏初古來神田初海主其高之陽高之才子集



月

共

大司馬... 漁口... 文通

柳... 文通

家... 文通

三十一日

思... 文通

百事... 何音... 香雪

De vromen hebben
tien vingers, aan elke
hand, d'ijde en twintig aan
handen en voeten.

廿五

楊江子由第...

921.

廿五

...

廿六

...

廿七

...

何者と新川に云ふ 我は海ありて
投る来りて云ふ

おまへはまのこころを
月探りておまへは

おまへは
おまへは

おまへは川に
おまへは

おまへは
おまへは

おまへは
おまへは

おまへは川に
おまへは

おまへは
おまへは

おまへは
おまへは

おまへは
おまへは

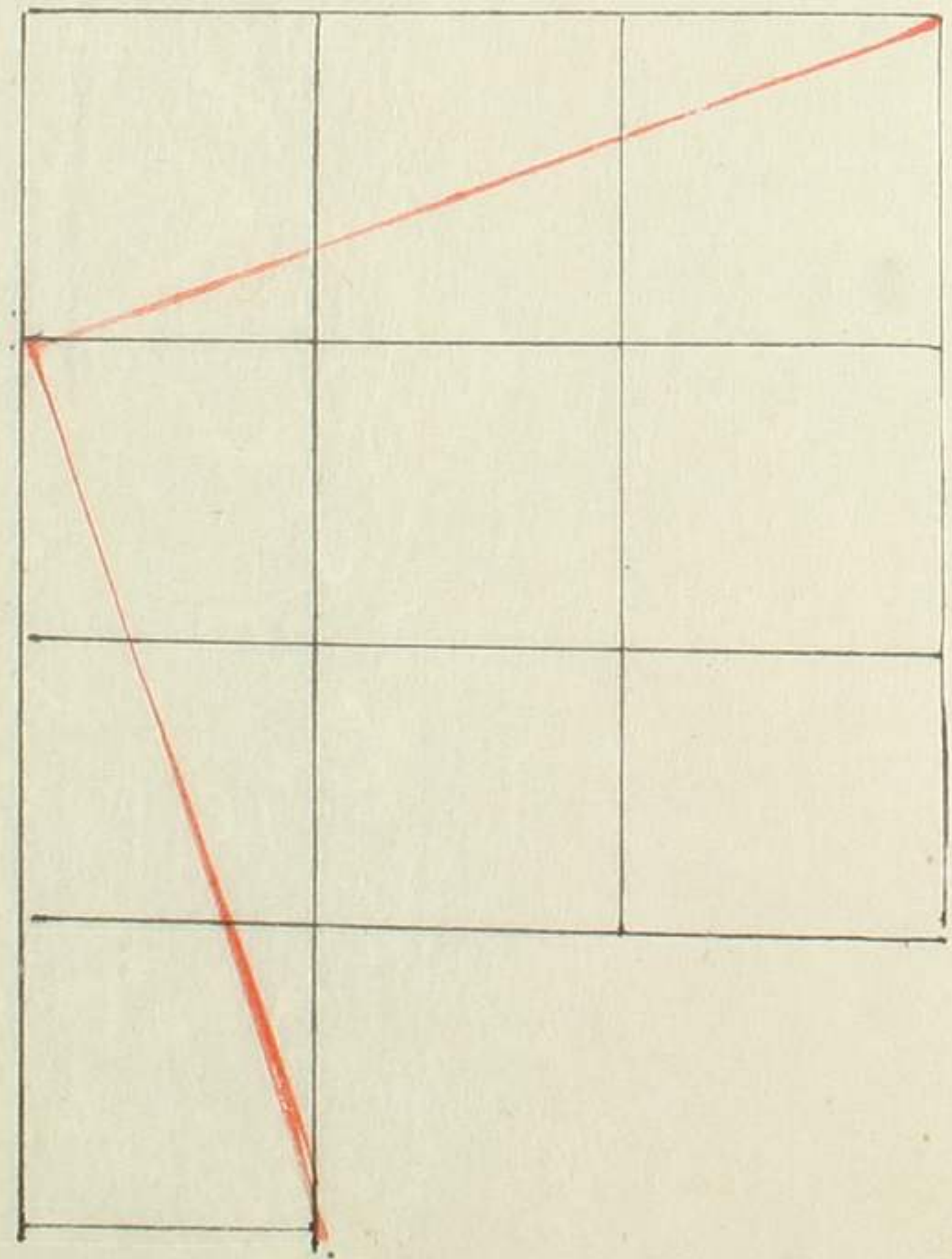
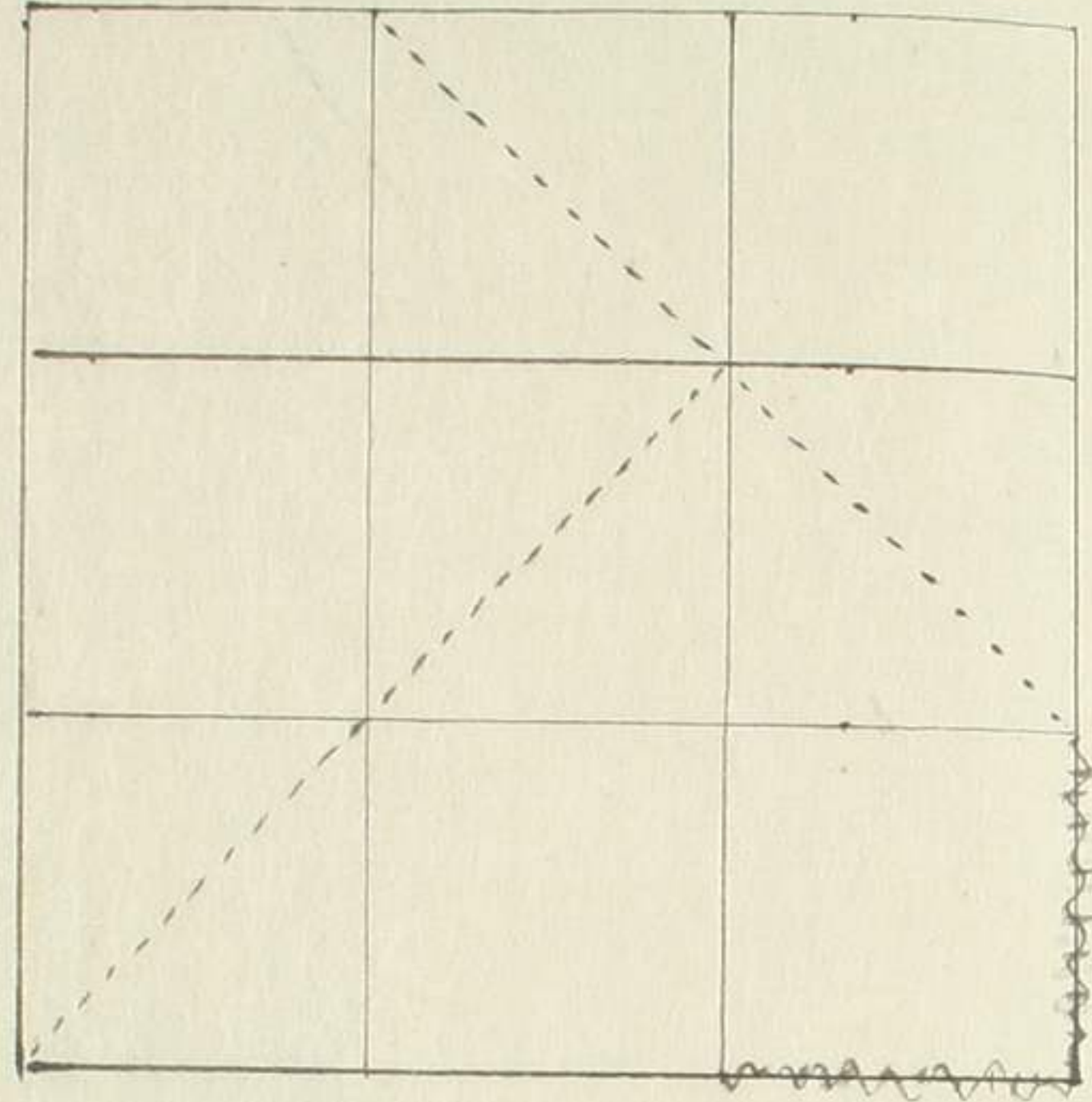
おまへは
おまへは

おまへは
おまへは

おまへは
おまへは

作有通尺卷的

試作の事



はるのけしき

春のけしき

とくはぬき春のあけをゆくはるを
秋のきりぎりすをゆくはるを

おのれを待つてはるをゆくはるを
文のけしきをゆくはるを

はるのけしき

春のけしき

あけのけしきをゆくはるを
あけのけしきをゆくはるを

Emplast. Diapalma.
Kansel Kicher.

Empl. Diapalmae.

EMPL. DIAPALMAE.
K.R.

EMPLASTRUM DIAPALMAE

EMPLASTRUM DA I

EMPL. DAPALMAE

有目吉の雲
 柳河の并に其冬初
 合東印江之海より木
 古く想弁一其
 或女はんを
 何の世
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

題名
八百四十四年
八月のうけ

五更
はやく

陽負か
陽負か

奇麗妙麗

三十一

聯句

浦島忘龜行騎鶴。子猷捨竹去桐風。

又

五更呼酒假秋水。二兩揮毫真大金。

月の舟
法

おれはあなりの
おれはあなりの
おれはあなりの

まふしにそふれは壁のまじりくはおれ 情を

まふしにそふれは壁のまじりくはおれ 情を
月多かくら

あふれにそふれは壁のまじりくはおれ 情を
ゆうめし

あふれにそふれは壁のまじりくはおれ 情を
あふれにそふれは壁のまじりくはおれ 情を

後海はこまの糸大困り

まふしにそふれは壁のまじりくはおれ 情を
あふれにそふれは壁のまじりくはおれ 情を

あふれにそふれは壁のまじりくはおれ 情を

あふれにそふれは壁のまじりくはおれ 情を

あふれにそふれは壁のまじりくはおれ 情を

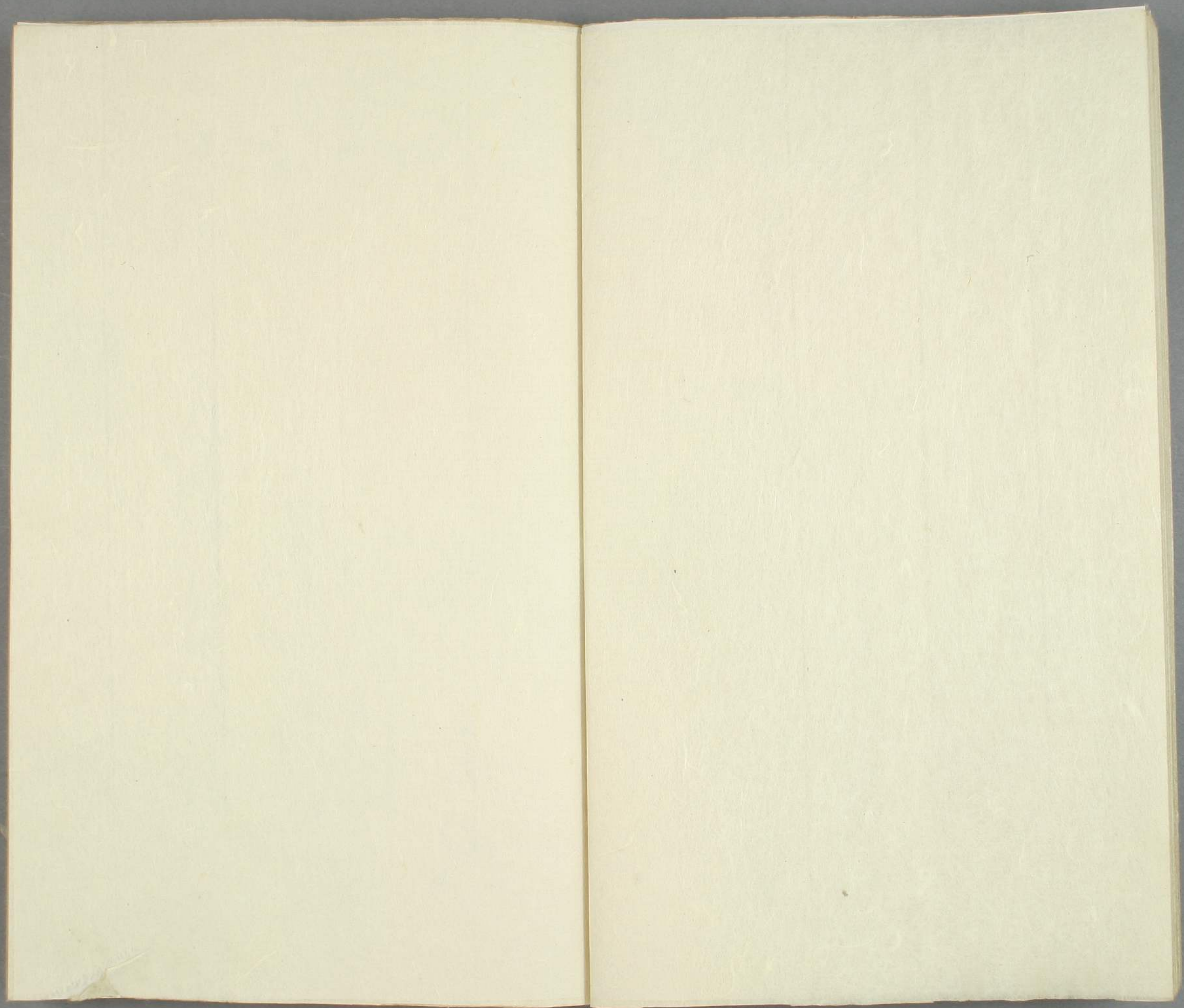
あふれにそふれは壁のまじりくはおれ 情を

あふれにそふれは壁のまじりくはおれ 情を

あふれにそふれは壁のまじりくはおれ 情を

あふれにそふれは壁のまじりくはおれ 情を

あふれにそふれは壁のまじりくはおれ 情を



傾城の子が抱く：題九

こゝろからぬはなはな

かたがはのこころ

こころ

正典

景下壁恋

かみまらちらぬわがよ

あはれなまきびかな

右様舟の初より

ひきかきうらな

るるいしな

甘辛の味

好む好むをいふ
おれおれおれおれ
おれおれ
おれおれ

茶のこやわい

懐のい

宿より朝までの
おれおれおれおれ

やりて辛中二
格中一
れいな

かゝるおれ所のぬ

おれおれおれおれ

かゝるおれ所のぬ
おれおれおれおれ

右井川の... 水... 龍...
... 笑... 山... 根... 石...

題 泉岳寺の... 聖元

... 乃... 血... 一... 石... 山... 泉... 岳... 寺... の... 泉... 聖... 元...
... や... 山... の... 泉... 岳... 寺... の... 泉... 聖... 元...

山... 泉... 岳... 寺... の... 泉... 聖... 元...

山... 泉... 岳... 寺... の... 泉... 聖... 元...

山... 泉... 岳... 寺... の... 泉... 聖... 元...
山... 泉... 岳... 寺... の... 泉... 聖... 元...
山... 泉... 岳... 寺... の... 泉... 聖... 元...

廿日
所為亦無以並之
仰見其有
其夜亦中矣

廿日
廿日
廿日

柳河神田柳山
同皆楊古
其夜亦中矣

小春

年
晴

二
日

自研一盃清興加野梅移在主人家
何圖三歲幽居客此夜其亭看此花

先生自落風塵。歡晤慰吾有故人。
獨愛禽兒好音在。一聲又作滿堂春。

誰園
其作
柳河
楠山
未梅
信從

言古

有却言り使りし云子に併柳河より
神用書き屏福を司之を授け
柳りんそ病るを治す之月三
言古

古三采司耕新り種を来

吾の曇

道塵より文通を噴きよる
文通夜入
柳河の下
秋木の生る徳

秋木のゆめをこころに
あはれりておぼれす
孝友の志

六日陰晴未定

神田柳河文通午後遊園名文通全田果泊

古三雲

金田之川中島多打多流多ク水集
智水橋在柳河神田相山来

八口口

九口口

柳河文通
名文通全田果泊

子象水

まみちの古さう杖のこけしるえ
の寝んくからさうす

海國の又ありお茶。野從節。二
そいふと知る

かいつるをさす月歌を

しよひらさるる茶市の上を

夜ふの野のねんたてみ
なや野の年から

或人浮田村より二女のねんたて
むかへ

新
製
精
製
之
藥
水
每
瓶
售
銀
一
元
二
角

SCOVILL M'F'G. CO.

Park Building, 4 Beekman
Street.

1 oz. IODIDE POTASSIUM.

New York.

有るものこみ ^奴 けらうおしと武士の
しりやとてなほのたしきいん

絵

けりやあふりしなからうく
やうのりあつてはこえと
武

思馬心一和也

有るよんし 昔とならう
いほめんそ けらうおしと武士の

えりやあふり

おるよんし けらうおしと武士の
いほめんそ けらうおしと武士の

若くは

若くは力就るやうなる

脚知哉

蹴おし
柳子の子

たかきし
西条の南

舟の天を以て

舟神を祀りてあり

夜くらふ

一かた

又ある川は水さき

流す

はるかにあつた

慈光

可きおりのすけ

廿日

有常末海

傾ハ又ハまきふく

おれはまの山まじし

まゆばやし山に入る
酒のがびらな
物石油

西月昨の夜色に園木
吹雪の多うふは地金

王安石

秋のふは此春花の夜

蕪素坡

説興詩人仔細吟

看小説粹言 唐道花下由

左様之の多樹大人よりきりおきけることの侍りて
日ひとぬ 数ひよまらあくるはくはくありける

雪子

久うの月の桂のささる言のよひつら西なるん

紫光

言の紫のまよひさうりまはぬ我々のはや世を隔らん

時め

玉子のちまきりくくまきりまをむくはくまをまきりて

深者うか

降る雨のまきりてまぬんらのまきりてまきりて

その新しき足音の響き
あふくわくわくとありけり

三三
あふくわくわくとありけり

あふくわくわくとありけり

あふくわくわくとありけり

あふくわくわくとありけり

あふくわくわくとありけり

あふくわくわくとありけり

あふくわくわくとありけり

あふくわくわくとありけり

あふくわくわくとありけり

あふくわくわくとありけり

寸舌 舌
夕刻 夕
徐市 市

甘

和氣 氣

金 金

おふ お

甘 甘

甘 甘

甘 甘

釋 釋

中 中

市
記

後... 徳山 比...

五... 記



菊... 記

少... 記

向... 記

花... 記

朔

イースルセメント

熟粉 十文

硫黄花 十文

礬砂 五文

右木かき糊稠ニ至ラシム

砂姑米 一名太米

卯辰子目

光玉串

玉兔

三斤
價目

此竹色 二首

園戲裏海從得首

自謂子子露如後噴息

智女之疏 稱古律 光臨疏

早 四年 天

雁子 管印 猶是 隔紙

才人 亦在 亂集 於此

少 亦在 了 然

石解乃安... 味言... 迷... の...

游... 遊... 遊... 遊...

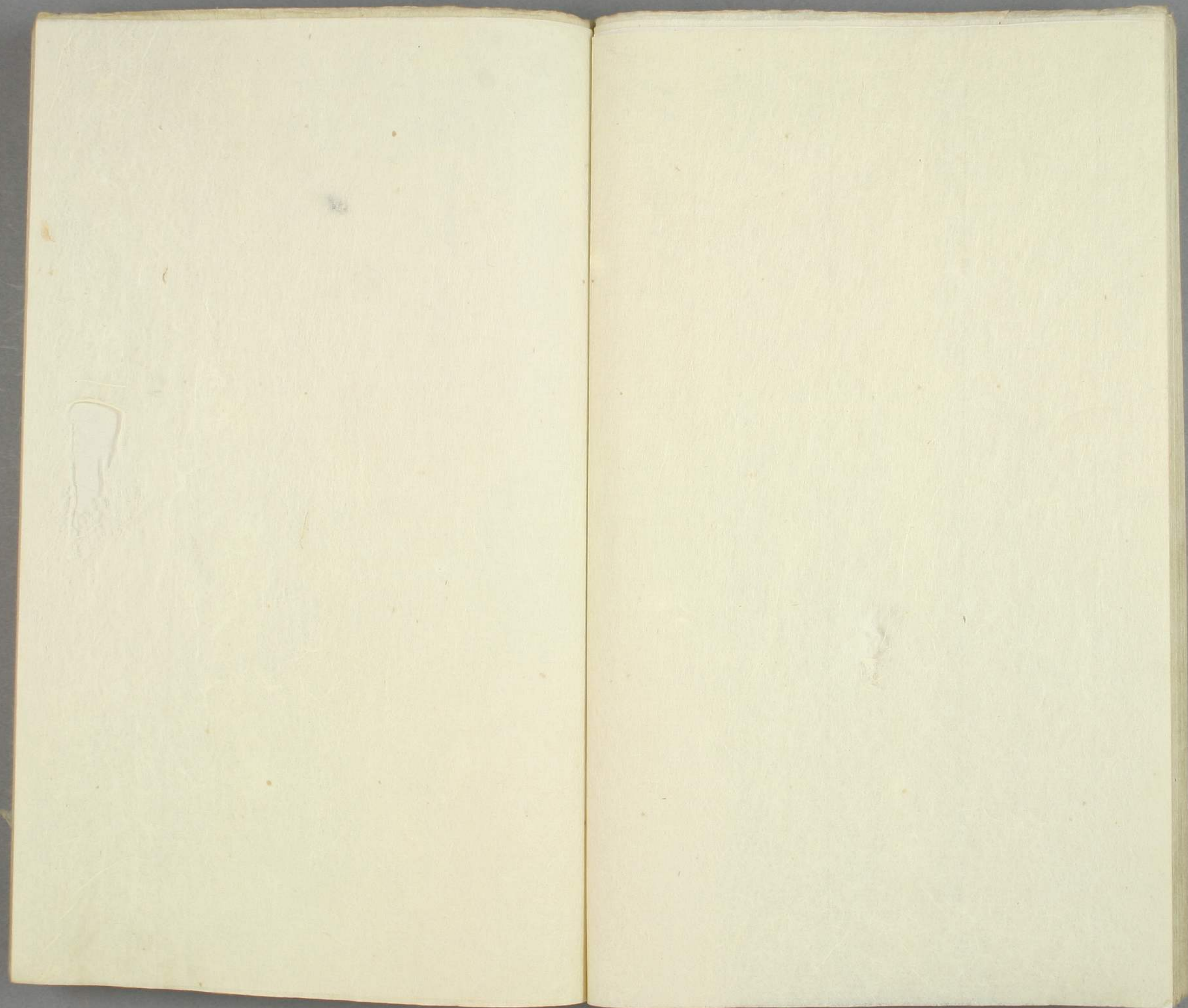
丑 丑月廿五日 晴 無片雲

舞昇美屋... 舞昇美屋... 舞昇美屋... 舞昇美屋...

極好... 極好... 極好... 極好...

本... 本... 本... 本...

... 桐井... 桐井...



慶應二年丙寅
正月元旦

暮年三過品川溪滿
烟波山色情香佳句
誰渡化爲海驛子潯

九悔為作

人

春未幾 七日從 亂後 江城 衰

梅花在 征人 多少 惜

梅花成 豈關 征馬 出江 城 春

好 只是 右 離 惜

送 淮 國 子 弟 所

物 芳 菊 觴 酒 不 是 醉 然

味 點 油 以 花 知 子 弟 言 却

有 惜

Handwritten cursive script on the right page, consisting of several vertical lines of text.

Handwritten characters, possibly a signature or a specific name, located in the lower right quadrant of the left page.

Large, prominent handwritten characters in the center of the left page, likely representing a title or a significant name.

Handwritten characters on the left side of the left page, positioned above the main central text.

Handwritten characters on the left side of the left page, positioned below the main central text.

Handwritten characters on the far left side of the left page, possibly a date or a reference.

まはしるこしをいふは家我の身
春の身はさうしにさひまの聲
このまをさきしははちの
わらわりのしるはの

中 偶

漢人

まはしるこしをいふは家我の身
春の身はさうしにさひまの聲

青天白日 仰天不愧

意

?

沈賢柳

至

少

人

青天白日。你天不愧相返。

少

孤舟曉過蒼溪東。煙
罩垂楊兩色濛。這裏
誰知斷腸客。相思
偏在不言中。

失題

此處

南泉を道

右 改大良基 ヨシモト

後浪を神乃とらばの花もぬハ八代をわけて花を ツギハ

佐保川の曇

前田大良基 オホノリ

花もくるとくじしと佐保川の流流と深きらと オホ

猿沼池れ月

古近所権太尉 オホノリ

乃とらふ波も氷の揺はの池も遠く月もとらふと オホ

春日中夜

権中仙 オホノリ

左の山と流の流やまじく人跡麻の地まじく麻の何あふ

三の三山を

前右大良基 オホノリ

三の三山を オホノリ

雲井板石

権中仙 オホノリ

村の三山を オホノリ

三山寺

前右大良基 オホノリ

おく雲のむいし オホノリ

三山寺 オホノリ

前右大良基 オホノリ

しらく人目 オホノリ

三山寺 オホノリ

前右大良基 オホノリ

二小
月

十五

東
薩
事
不

Secret
Letter

明
字
密
標

二	七	六
九	五	一
四	三	八

春の事なごころは梅のほき月かき

しつとわさるるや

○来り... 梅とまはるるや

柳の枝にまはるるや

夜り事候とらるるはのさる里にけりて陽

田のあしこさりしを

○夜り... 船の舟を津越てあを

ぬれそきこまやほしきも

秋の事なごころは... 津越てあを

こころ... 常夜角かたり

○秋... 水あふみかけあし

唐の月... てもあし

み... 雲

こころ... 雲

こころ

○来り... 波とまはるるや

波とまはるるや

7... 雲

歡音閣上吹雲歸
忽有鐘聲出
翠峯撒沙階
待舟人
馬西宮路
雙雙映江影

清宮宮前

庭叢就荒但
穢忙孤忘
愁年枕
額一以雁陣
三更月
夢破爐香吐

畫對

西討未可
軍威凱
將軍
畫名何在
雲屯戰
士香思卿
又遇新年
加一倍

丙亥之旦書

之

廿五日 兩洞公神忌

儀具全在往田自是夕多
Print 陸米與

廿六日 午後方止

終日往與云々

廿七日 唯讀所志定

廿八日 往來志定

廿九日

午後取掃也

二月
廿五日
午後
由
州
往
回
奉
節
上

3
and
some
for
2

追鳥街既歌曲新門，松竹維纖產呼靈
擲彩未驚古時樣，瓦派傳傲人幸賴垂衣
催暖任款尋梅初買春，去年西星相果
差無限烟波漾月輪

待乳山容嘆已含，且以梅下水拖蕪，言郎錢
渴拭心淡，妙妝歌殘春酒甘，木女寺樓

紅未上梅是墳，梅綠方酣，月走此陰，
憐愛浪而浮鴨一二三

澤東新山文湯題

以上二首流麗無比

M. K. Takidy.
B;

サキて快晴入梅

水とあつたを注園に流す

雨降りか
おりの雨よき別をいえと
くらこの後の少なきは
おとあつてくらり
くことおと後のつゆり
所はあつたやうに
今この月の

常々此の後の候を

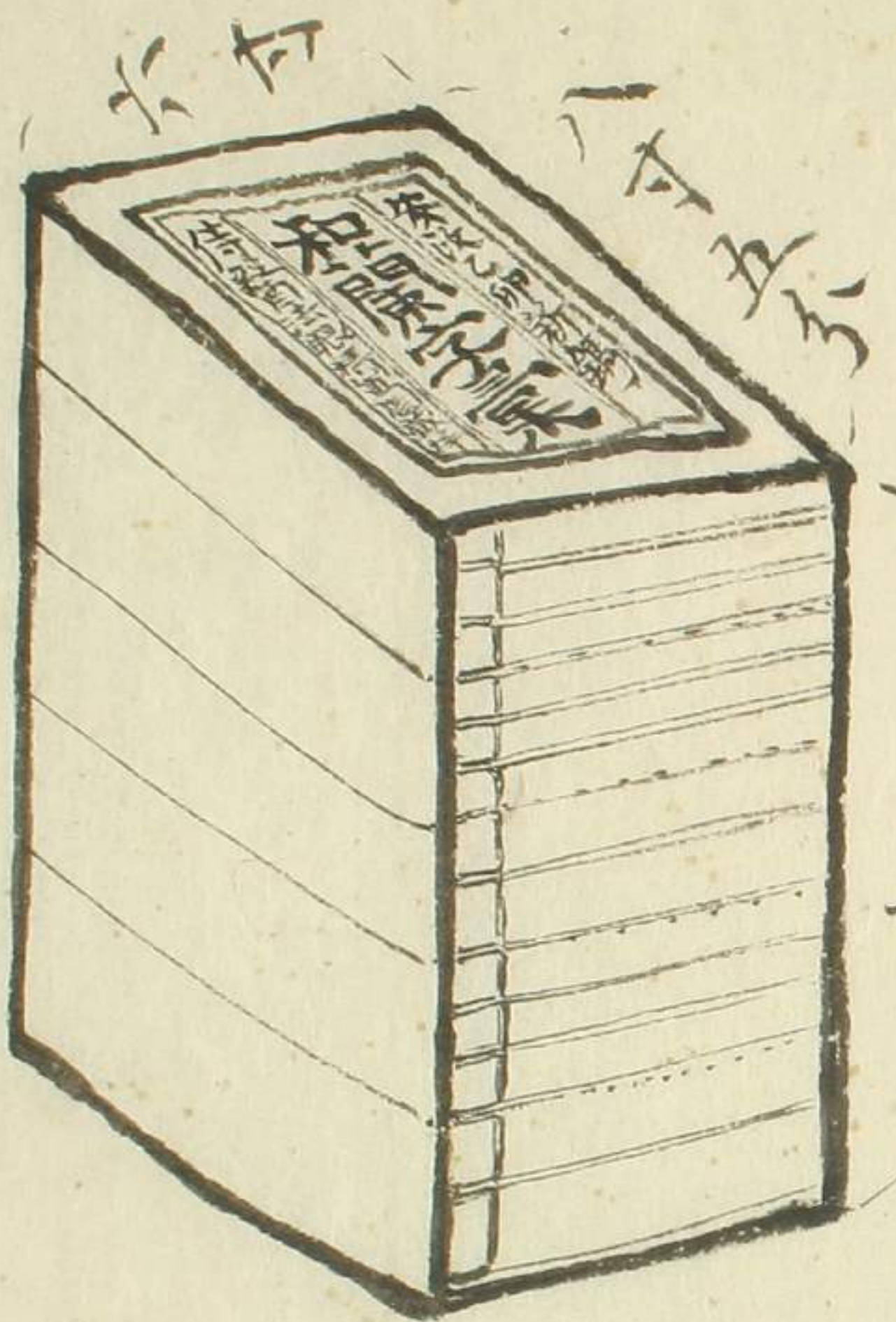
經溪川五感

去年出地擅之家水月梅苑

意載妓舟二十餘年喜友

氣與雲霞水與

水竹石之



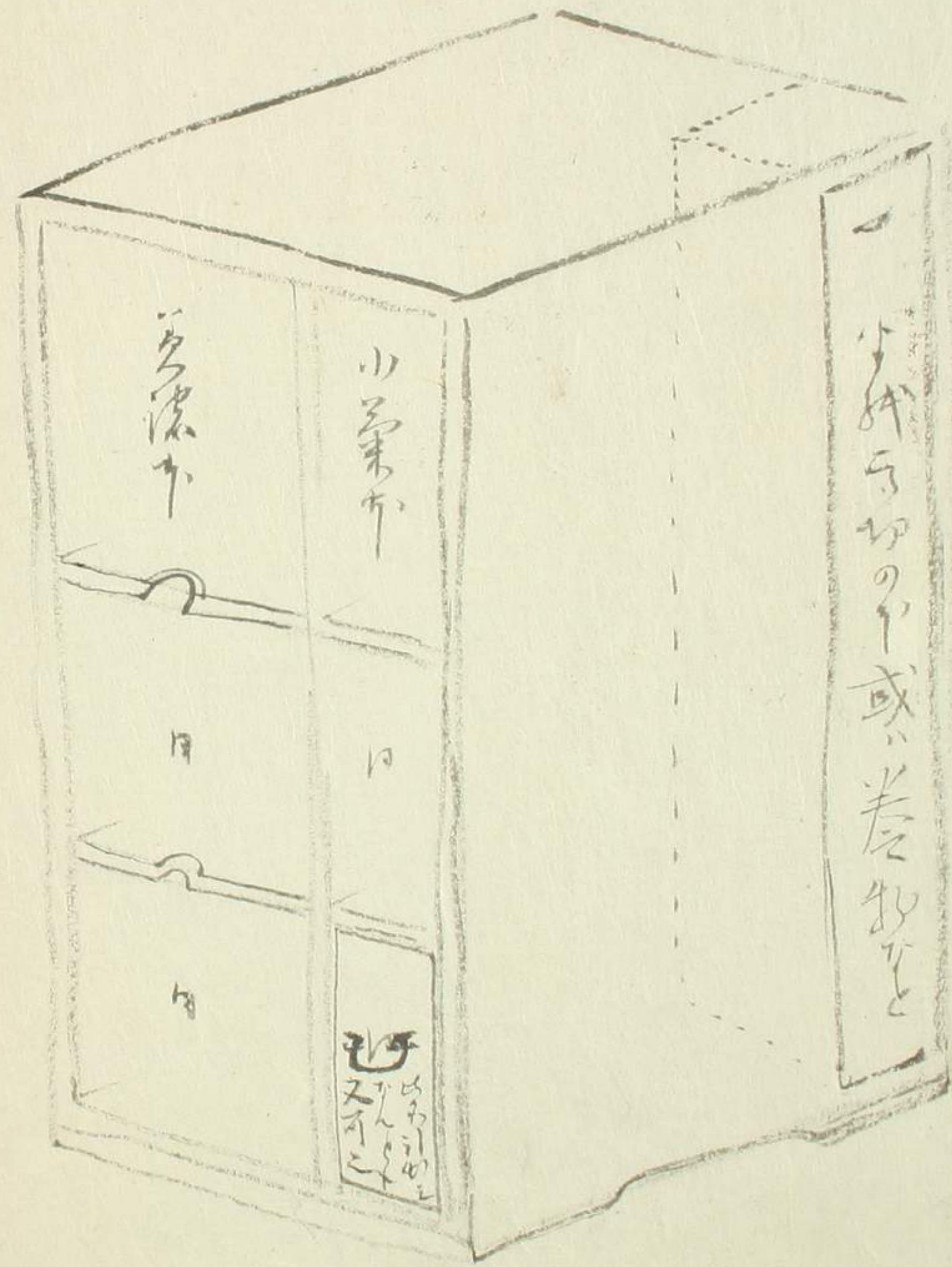
高九寸五分

右列人年一

初編之冊
二編之冊
三編之冊
四編之冊
五編之冊

Deze wereld zijn
 vol gekken,
 Hy, die ze wil niet
 zien
 Moet zich van elk
 trekken,
 Helpt den spiegel
 verlicien.

愚民満天。不辨鹿
 與馬。君欲避愚民。須
 應不見人。誰識明鏡
 裏。又著鑽鑿子。
 杉田梅里翁作



九月廿七

中村子儀 徳川幕府の
御用金 向東國
山内 向東國
安部秋任 向東國
徳川幕府

世のしるし

女中の株

安部秋任

徳川幕府

五月の丁巳日
五月の丁巳日
五月の丁巳日
五月の丁巳日
五月の丁巳日
五月の丁巳日
五月の丁巳日
五月の丁巳日
五月の丁巳日
五月の丁巳日

花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を

五

花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を

花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を

花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を
花の香を

かきかへるゆへに
たを裡ろくろりある

煙のちをいん煙草入て
らちをいん煙草入て

おまゝいづちあがらちをいん
らちをいん

おひまをいん
あしすのいん

他城のいん
まよの野

あしすのいん
あしすのいん

いん
あしすのいん

あしすのいん
梅歌集久

ゆけどいしとのかきうなまらちて
少松ふまれ 鏡月 母

元々一とらに 万所 万葉集 万葉集
わのきとてしとせ 山花 万葉集

山花 万葉集 万葉集
はつこのりちのりあまう有る

ひな葉 万葉集 万葉集
かけまき 西の 秋の 万葉集

鎌倉 万葉集

武者 万葉集 万葉集
お 北の 万葉集

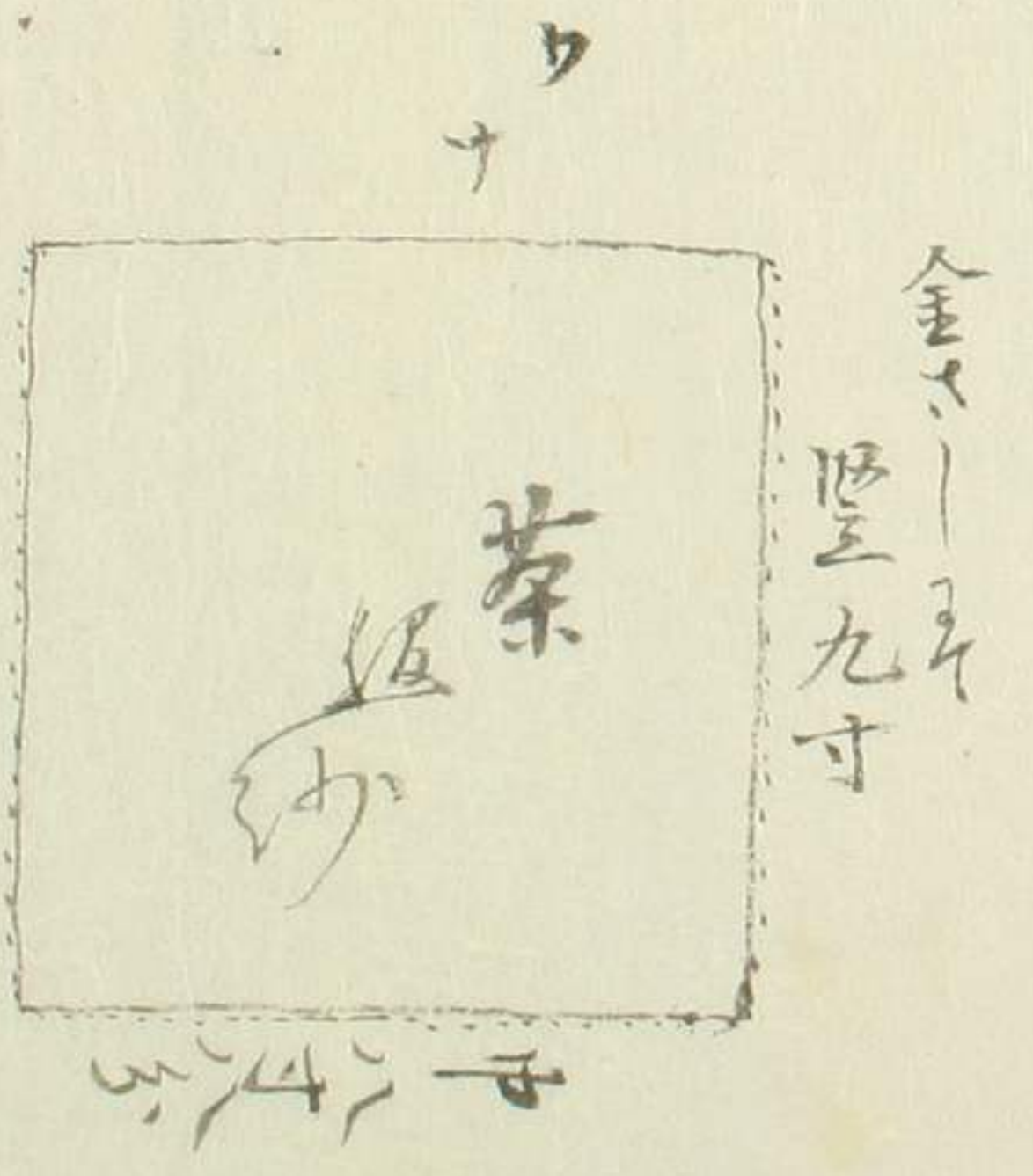
4

高尾原の
 山川乃木は
 月影

昔の
 日守
 年定

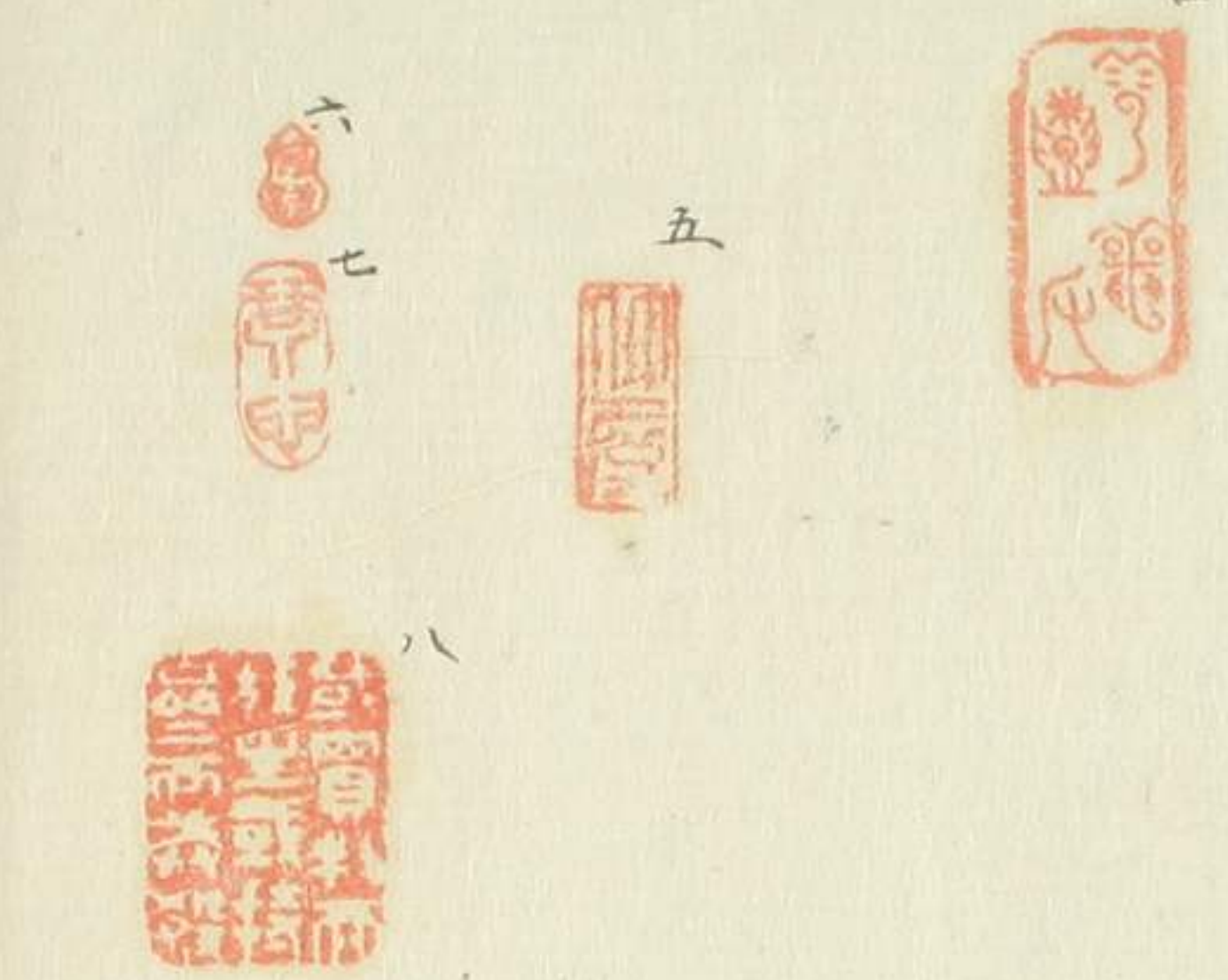
了成
 年
 子
 八月九日

古
 姓
 中



糸の女と木のあらの只
 かけりて
 時三や
 月
 103

三少樹



10000.

九月廿夜燈下改之



右の松
左の松

下東三

月二
毛一回

松

右の松
左の松

ibary-nit

象牙 種菓



標印
松園一枝
新樹

西洋政中白

市川

付田行

西田楠

阿蘭國傳

神皇信皇社

上常宮

龍燈、松

少皇信皇社

之尤教授職

京師方大授傳任職ヲ選



